

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892200136		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム加古川尾上		
所在地	兵庫県加古川市尾上町池田1743		
自己評価作成日	令和5年1月23日	評価結果市町村受理日	令和5年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先
----------

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19		
訪問調査日	2023年2月22日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームでは利用者様が自由に過ごせるよう配慮し可能な限りご自身のペースで過ごして頂いている。職員は利用者同士の良好な関係性の定着に努めており、閉鎖されがちな入居施設からの外出レクや毎日の散歩を実施している。また、家族様との良好な関係を保っており、よく面会に来られる家族様とは意見交換も活発である。

#### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍に入った前々回の調査時(令和2年10月)、加古川市ではコロナ感染も少なく、加古川市民病院で神戸市の患者を受け入れている状況にある。と書いたが、1年6ヶ月後の令和4年4月にコロナのクラスター(利用者4名・職員6名感染)が発生、対応に追われたという。症状は皆軽く、入院者もなく、他ユニットに飛び火なく、3週間で治まったのは幸いだった。長引くコロナ禍で、気分転換を目的に10月に3年ぶりのバーベキューを実施して大変よろこばれたという。高齢者施設として油断はならないが、春の学校行事の際のマスクの着脱やコロナの感染症分類変更が話題になってきたのは良いニュースである。調査時の質問「コロナが終息すれば何をしたいか」に、管理者は「外食に連れて行きたい」と答えた。1日でも早い実現を望みたい。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

# 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の生活の場と捉え必要な支援の力をサポートし可能な限りご自身の持つ力で生活して頂けるよう取り組んでいる。	「私たちの関わり方次第で可能性は引き出せる」を事業所の理念として掲げ、職員に徹底するため事務所に掲示し、朝礼で読み合わせている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩に出る事で近隣住民との挨拶や交流をしている。また町内会のイベント等参加出来る時は積極的に行っている。※コロナ継続でイベント参加出来ず。	コロナ禍以前は散歩に出かけた折に近隣住民と挨拶を交わし、また朝市等の町内会のイベントに参加し交流を深めていたが、現在はコロナ禍で中断している。コロナが終息すればこれらを再開する予定である。	利用者が地域とつながりながら暮らしていくことができるように支えていくことが大切です。現状に満足せず、地域活動への参加、人々とのふれあい等を考える機会として頂きたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談にはお問い合わせがあった際に実施している。地域包括主催の認知症や高齢者福祉の理解を広める活動等に出来る時は参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	広く意見を聞く事と詳しい報告を行ない情報共有をしている。※現在はコロナの為書面通知行っている。	市介護保険課職員、地域包括支援センター職員、民生委員、町内会役員が参加し2か月に1回開催されている。事業所の報告、情報交換を行い、いただいた意見はサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2市2町GH協会に参加し研修会等に参加している。	市職員が運営推進会議に出席している。事業所の現状を説明したり、市職員からアドバイスをいただいたりしている。2市2町GH協会に加盟。2～3か月に1回開催される研修会に参加し内容を職員に報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の取組みとして定期的な研修を実施している。	定期的に研修を実施している。身体拘束の内容とその弊害を理解していただき、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について不適切ケアチェックシート等を活用しながらどのような事が虐待につながる恐れがあるのか等定期的に共有する機会を設けている。	不適切ケアチェックシートを活用しながらどのようなことが虐待につながる恐れがあるのか、それを防止するにはどうすればよいのか等を学ぶ機会を設けている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会参加などで知りえた情報は職員にも伝えるように努力している。	成年後見制度を利用している方は現在1名いる。研修会には積極的に参加し、研修内容は職員にも伝達している。相談にはいつでも対応できるようにホットラインを開設している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時には家族様に不安の残らないよう説明をしている。随時問い合わせがあった場合には詳細を説明している。	入居時に「重要事項説明書」及び「運営規定」に基づいて詳細に説明し、質問や疑問にも丁寧に答え、不安を取り除いたうえで契約を結んでいる。その後、問い合わせがあったときにも親切に対応している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会社のアンケートに基づきホーム内に結果を掲示しより良いホーム作りへの目標を設定している。	本人や家族との日常会話の中で意見や要望を聞き取るように努めている。また、アンケート調査も実施している。寄せられた意見は掲示し、職員間でも話し合いサービス向上に活かしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で意見を交換する場を作っている。	ホーム会議やユニット会議で意見交換する場を設けている。また、3か月に1回、定期面談日を設け、個々人から意見を聞いて運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	前回と比べても職員の入れ替わりは定期的に訪れている。長く定着する職員を作りたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な研修を行なっているが参加率が少ない。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人の近隣施設長との関係性が良好で意見交換等も活発である。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成者を中心に家族様の情報を共有し具体的なサービスが提供できるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	連絡を密にすることにより不安解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の症状で今困っている事を聞くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話を多くする心がけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様一人一人に担当職員をつけ連絡が出来る体制を作っている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	知人などの訪問は制限していない。また家族様同行の外出や外泊にも制限はしていない。※コロナの為外出は控えて頂く。面会は可。	知人等の訪問に制限はない。家族同行の外出や外泊にも制限はない。馴染みの人や場との関係を途切れさせないように配慮している。コロナ禍で中断しているが、収束した時には小旅行も復活させたいと願っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	口論となる場合には仲裁に入れるよう橋渡しをしている。仲の良い利用者の把握と関係性の構築を行なっている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当ホームではサービス利用後の関係性の継続は残念ながらほとんどない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人様の性格の違いに対応した会話をするようにし特徴を把握した対応をするように心がけている。	本人や家族の性格の違いを考慮した日常会話の中で、思いや意向を把握すべく努力している。コロナ収束後は「気持ちよく日々過ごしたい」との願いがかなえられるように職員一同頑張っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報と入居後の情報の収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々生活の中で体調管理に努め本人様の自身で出来る事の把握をしている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者を中心に職員とのヒアリングを行い介護計画を作成している。	本人、家族、職員等から多くの意見を聞き、計画作成者を中心にヒアリングを行って介護計画を作成している。見直しは、長期目標が6か月、短期目標は3か月である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は当日のスタッフが行っており必要時はいつでも見返す事の出来る状態にある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	会社で定められた枠内での事業所運営をしている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員が関わる行動にしか参加できていない。利用者個々は思いを語る事が少なくまた楽しめているかわからない事も多い。利用者に楽しんでもらいたいと職員の意識。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医と連携が取れている。	入居時にホームの協力医療機関に変更していただいている。協力医の往診は、内科医が2週間に1回、歯科医は必要に応じて適宜行われている。協力医療機関以外の受診は原則家族の付き添いとなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護職員により体調管理を行なっている。また24時間のオンコール体制としている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供がしやすい環境を作っている。	入院時には入院医療機関に情報提供を行い、コロナ禍で面会はできないが、関係者とは週1回程度の話し合いを行っている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	提携医の見解を基に必要な説明と対応が出来るような環境にしている。	契約時に「重度化した場合の指針」に基づいて家族に説明している。看取りは現在はいない。重度化した場合には関係者とよく話し合い、本人や家族の意向に沿うように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時にはホーム長、複ホーム長も近くに住んでいる為駆けつけることは可能。また緊急時の連絡網を作成しており対応可能である。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練に消防職員からの説明など受けている。	年2回避難訓練を実施している。現在はコロナ禍で消防職員の参加はないが、計画に対する意見は聞いている。地域住民の協力は得られていない。災害時に備え食料や飲料水は3日分備蓄している。	災害時に職員だけの誘導には限界があります。消防署だけではなく、地域住民の協力も欠かせません。日ごろからの協力体制を築いておくことを期待します。

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の態度や言葉使いに不十分な点があるが見かけた場合は注意指導を行なっている。プライバシーの保護には注意を払っている。	入職時のオリエンテーションで、入社後の社内研修で、人格の尊重やプライバシーの確保について勉強する機会を設けている。職員の態度や言葉遣いには充分注意している。それらの場面を見聞きした時には注意・指導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員間で話し合い利用者の気持ちが引き出せるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活がパターン化されているが出来るだけ利用者の要望を捉えるように考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員の意識により適切な対応が出来るよう支援している。また、理美容などご家族様の要望を取り入れている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、盛り付け等出来る事は利用者様にもして頂いている。	献立は業者が1カ月毎に作成している。朝食は職員がつくり、昼・夕食は業者から派遣された調理師がつくっている。調理、配膳、後片づけは入居者も手伝っている。入居者の楽しみの一つにもなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々、水分量、食事量を記録し毎月の体重管理にて状態観察している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日1回以上の口腔ケアの声かけ、支援を実施		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力で排泄される方には基本見守りのみになっているが利用者の能力に合わせた介助を行なっている。	ズボン、紙パンツの上げ下ろし、尿取りパットの着用等、利用者の能力に合わせた介助を行っている。自力でトイレで排泄できるようになることを目標に。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師と話し合い下剤の調整、日々の管理をおこなっている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間の希望を聞いたり入浴剤を使用したり安らげる環境作りをどりよくしている。	入浴は週2回。時間帯は午後～夕食前までとなっているが時間帯にこだわらず、希望を聞きながらそれぞれに対応している。楽しく入浴していただくため、歌謡曲を流したり、入浴剤を入れたり、菖蒲湯をつくったりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	2時間ごとの夜間巡視、室温管理行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助は職員が完全管理している。薬の変更があった場合は看護師リスト、往診リスト、申し送りノート等で周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のニーズに合った支援が出来るように各利用者に担当職員をつけている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日の散歩や外出レクを実施。一人ひとりの要望に沿う事は難しいが家族様との外出や遠出の計画などを実施している。	コロナ禍で外出の機会は少なくなっているが、毎日の近くの公園への散歩や外出レクは実施している。コロナが終息すれば遠方に出かけたり、外食に出かけたり、楽しみの機会をつくっていききたい。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が管理している。必要な物は家族様や職員が買い物を行なう。場合によっては買い物に同行して頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には自由に出来るように支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備について職員全体と話し合いながら配置等行なっている。安全面には配慮できているが清潔面で不十分さが残る。	入居者が気持ちよく、楽しく団欒のひと時を過ごしていただくため、職員全体で話し合い環境整備に努めている。室温、湿度、換気に注意を払いながら、壁紙には季節に応じた壁面工作を施し、入居者の作品を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは利用者個人は自由な行動をしてもらっており特に制限は設けていない。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はほぼ、入居者の持ち物で構成されており各々の生活空間が出来ている。	タンス、ベッドは常備されているが、それ以外はほとんど持ち込みである。テレビ、仏壇、冷蔵庫、テーブル等、使い慣れた好みの物を持ち込み、家族の写真や作品を飾りそれぞれの生活空間をつくり出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	法人の理念に基づいている。		

事業所番号	2892200136
法人名	メディカルケアサービス関西株式会社
事業所名	愛の家グループホーム加古川尾上
所在地	加古川市尾上町池田1743 電話 079-425-2260


【情報提供票より】令和 5年 1月 23日事業所記入(職員数は調査日現在)

(1)組織概要

開設年月日	平成22年8月31日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 名
職員数	9 名	常勤 7名	非常勤 2名 常勤換算 8.6名

(2)建物概要

建物構造	単独型
	鉄骨造り 2階建ての1~2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	水道光熱費(月額)	25,000円
		管理費(月額)	10,400円
敷 金	有り(200,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	なし	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,650円		

(4)利用者の概要

利用者人数	17 名	男性 3 名	女性 14 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名
要介護3	5 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 87.37 歳	最低 79 歳	最高 92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団せいわ会 たずみ病院・医療法人社団 うちだ歯科
---------	-------------------------------

## 目標達成計画

令和5年3月31日

目標達成計画は、自己評価及び第三者評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	(コロナ関連が終息又は行動緩和されれば)地域の皆様との接点や利用者が外に出る機会が少ない為増やしたい。	以前はファミレスや遠出を実地していた。人の集まる所への外出が禁じられてい為、今後は外出の機会を増やす。	ファミレスへは5月以降、遠出は6月以降で実地予定であるが状況を見ての判断となる。	6ヶ月
2	3	運営推進会議は現状書面で実施、行政や地域代表の方と今後対面で実施したい。	5月の運営推進会議より以前招待していた方達に連絡する。	状況を見ての判断となるが、感染予防策を実地しての開催としたい。	3ヶ月
3	17	消防訓練は実施しているが簡単な物となっている。	消防職員の招致や災害時の想定訓練等、実際にホーム外までの誘導等を行ってみたい。	業務継続計画・BCP/災害時想定等新規入社社員も増えた為、再度見直しを行い、不足の事態に備えられるようにする。	6ヶ月
4					



(様式2(2))

## サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取 り 組 ん だ 内 容 ( ↓ 該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他(自己評価を管理者、計画作成担当者が中心になり実施した。)
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他( )
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他(今後の運営推進会議で説明し報告します。・職員には4月の職員会議時に報告します済みです。・ご家族対しては玄関フロアに掲示、説明します。
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)

		⑤その他(目標達成を作成し、職員に説明し、取り組んでいきます。運営推進会議で説明、報告致します。)
--	--	---